

優秀賞

空飛ぶじゅうたん以上

智辯学園和歌山小学校 六年

土畠 瑞穂

今年は大阪・関西万博が開さいされました。世界中からたくさんの人やモノが集まりました。私は世界中の人がとがアイデアを出して進化していくモノや技術をパビリオンで見学し体験をすることができてラッキーでした。

私の住む和歌山県は海と山と川の自然資源に恵まれ温暖な気候で、み力的なところです。しかし長い地形で紀伊山地が中心にあり、ところどころで交通の便が悪く、「陸の孤島」となってしまうエリアも多く高齢化の進んでいるところもあり問題がたくさんです。今回の万博で和歌山県内で活用できたらいいなと思うモノがいくつありました。

一つ目は未来の医療についてです。健康データが管理され自分の家で医師にスクリーン診察や、ドローンで薬の提供をしてもらえます。一番のすごさはリモート操作による「空飛ぶ手術室」です。これで山間部や離島など住み慣れた場所で高度な医療が受けられます。

二つ目は環境エネルギーについての輸送技術です。EVバスは自動運転で走りながら充電して動きます。水素燃料電池船は水素と空気中の酸素を使い二酸化炭素を排出しません。環境が快適になるので期待しています。

三つ目は農作物の手間が多い農家へのサポートができる技術です。手作業や運搬をロボットがし、機械間でコミュニケーションをし、自律で作業を行えます。知能化した機械が農作業をシミュレートして無だのない農作業で無人化できるところが多くなり、高齢化した農家も楽になり続けられます。消費者も望んでいるモノが手に入りやすくなりそうです。

これらのことから未來の技術が使われると、和歌山県の抱え

る問題の人口減少や高齢化や地域医療の困難さなどの改善に期待できそうだと思いました。未来の生活が、もつと良くなることが楽しみになつた万博経験でした。